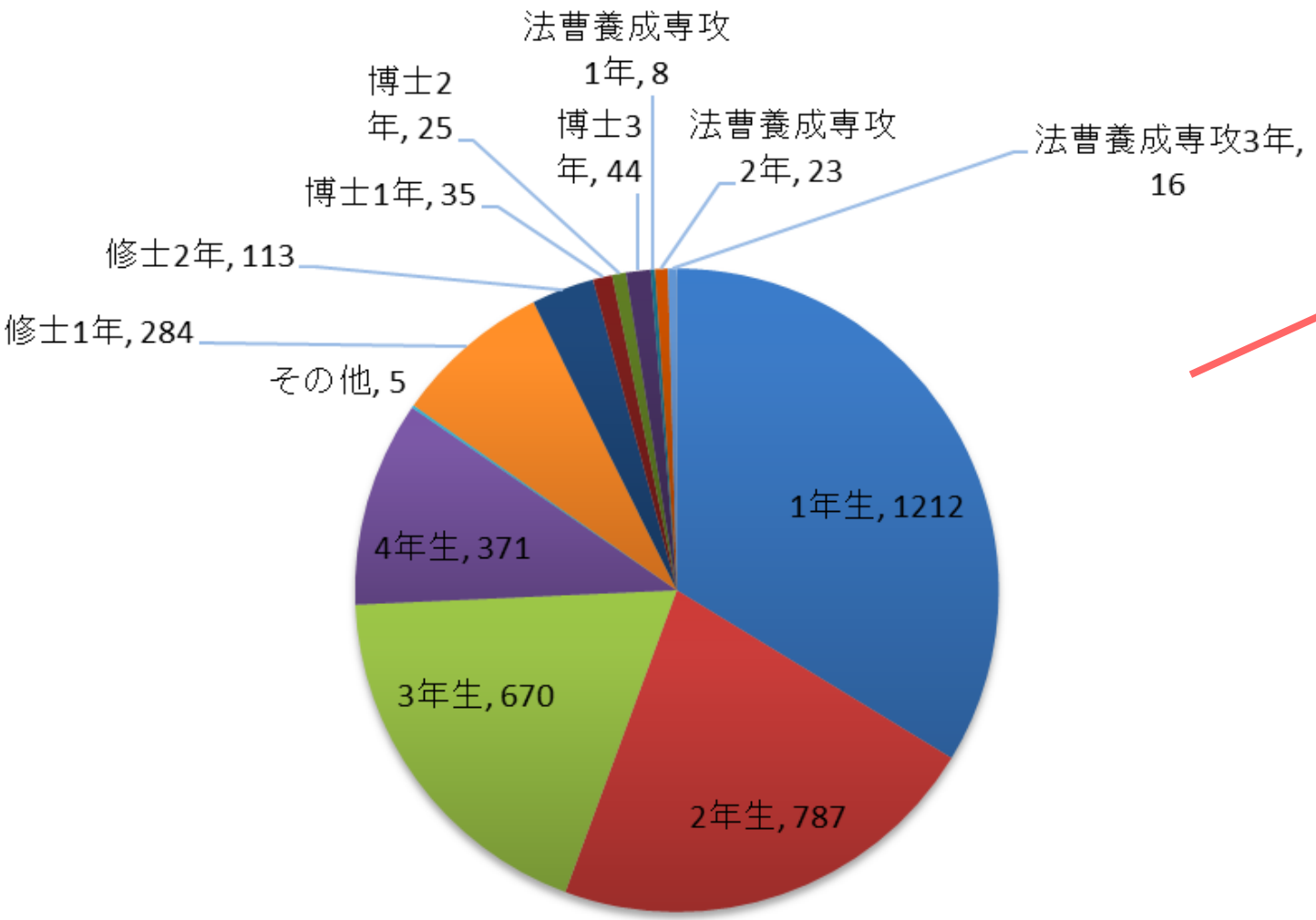
オンライン授業アンケート報告

大学教育センター
岡田有司

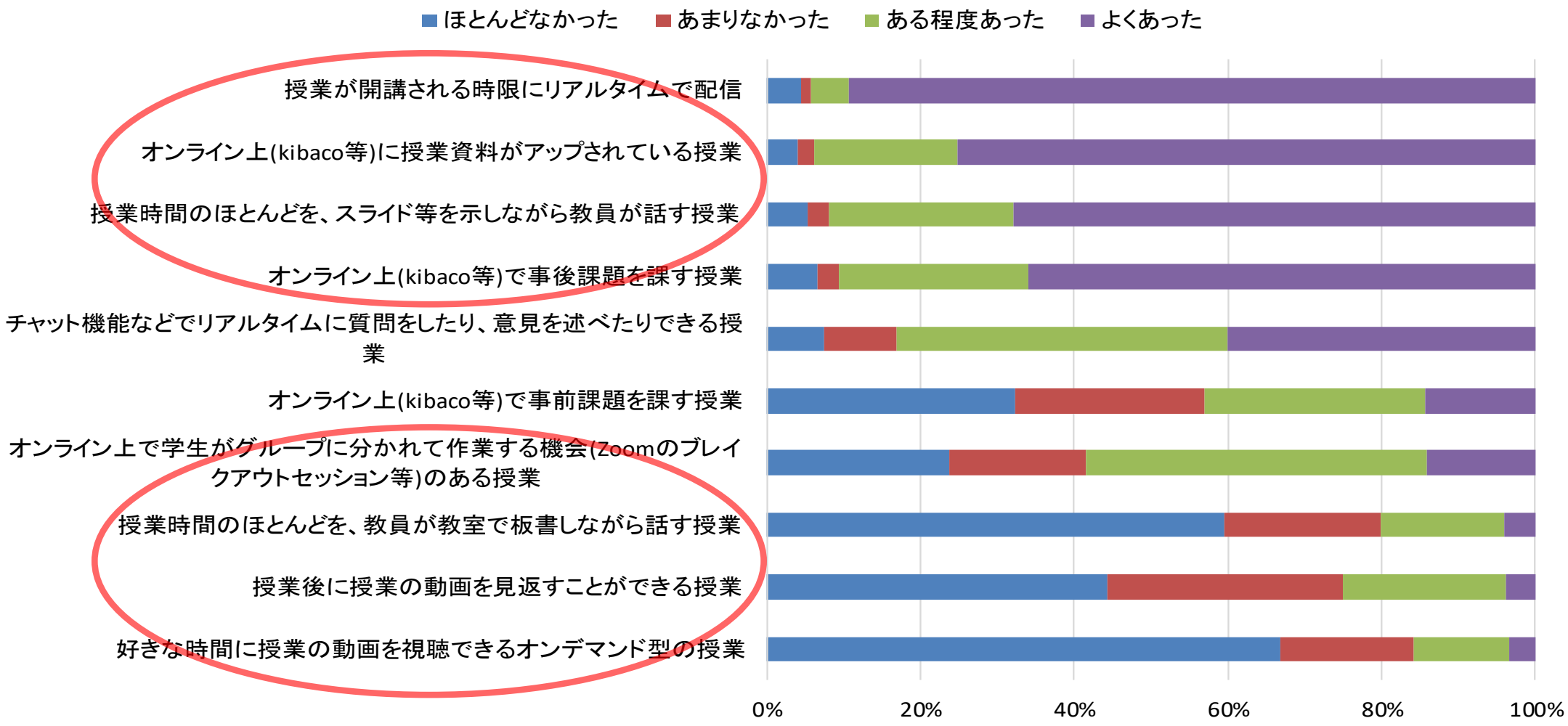
学生アンケートの結果

調査回答者



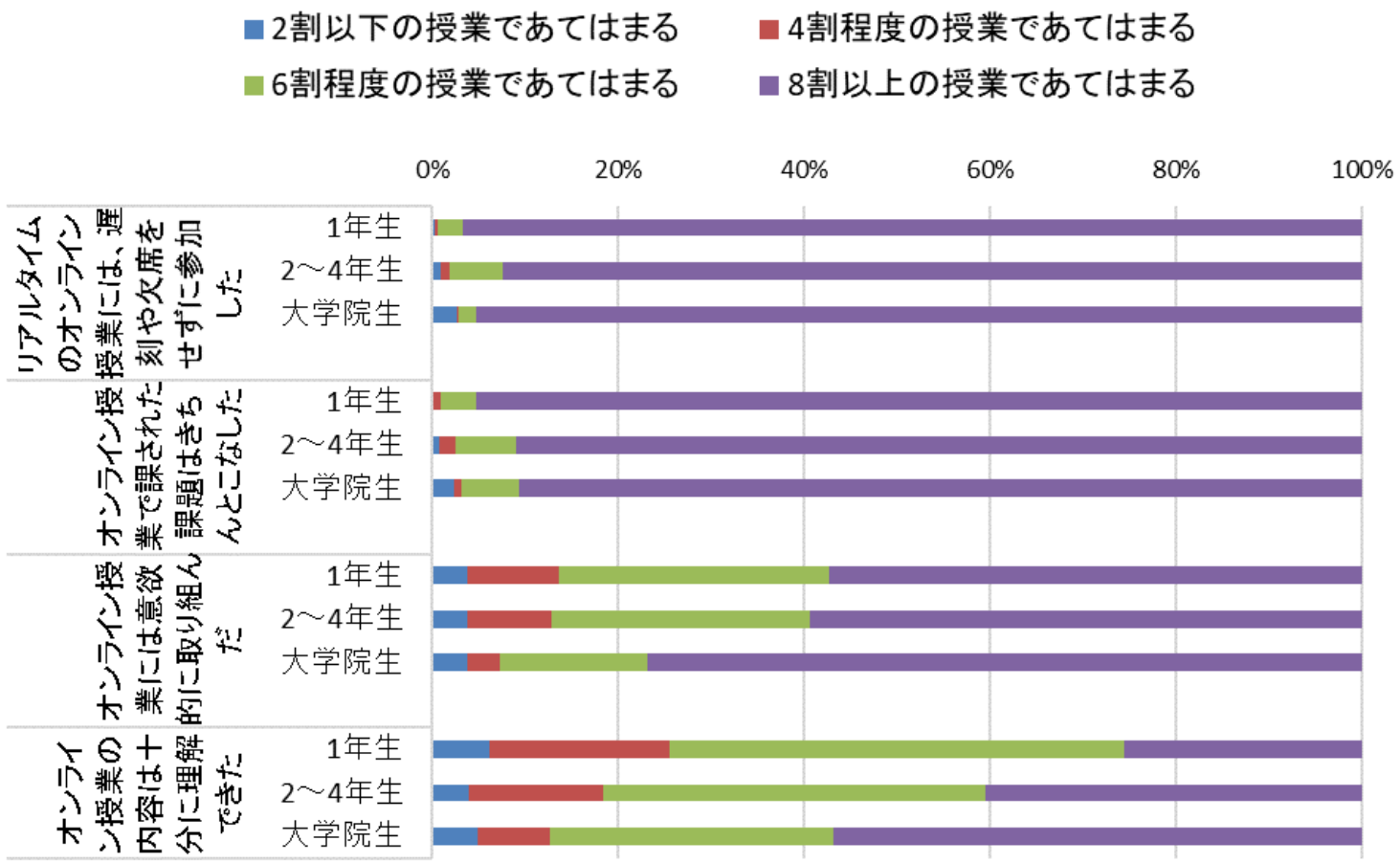
学部生・大学院生含め3596名が回答

オンライン授業の授業形態に関する学生の経験



オンライン授業の実施形態に関する学生の経験頻度

オンライン授業への取組状況



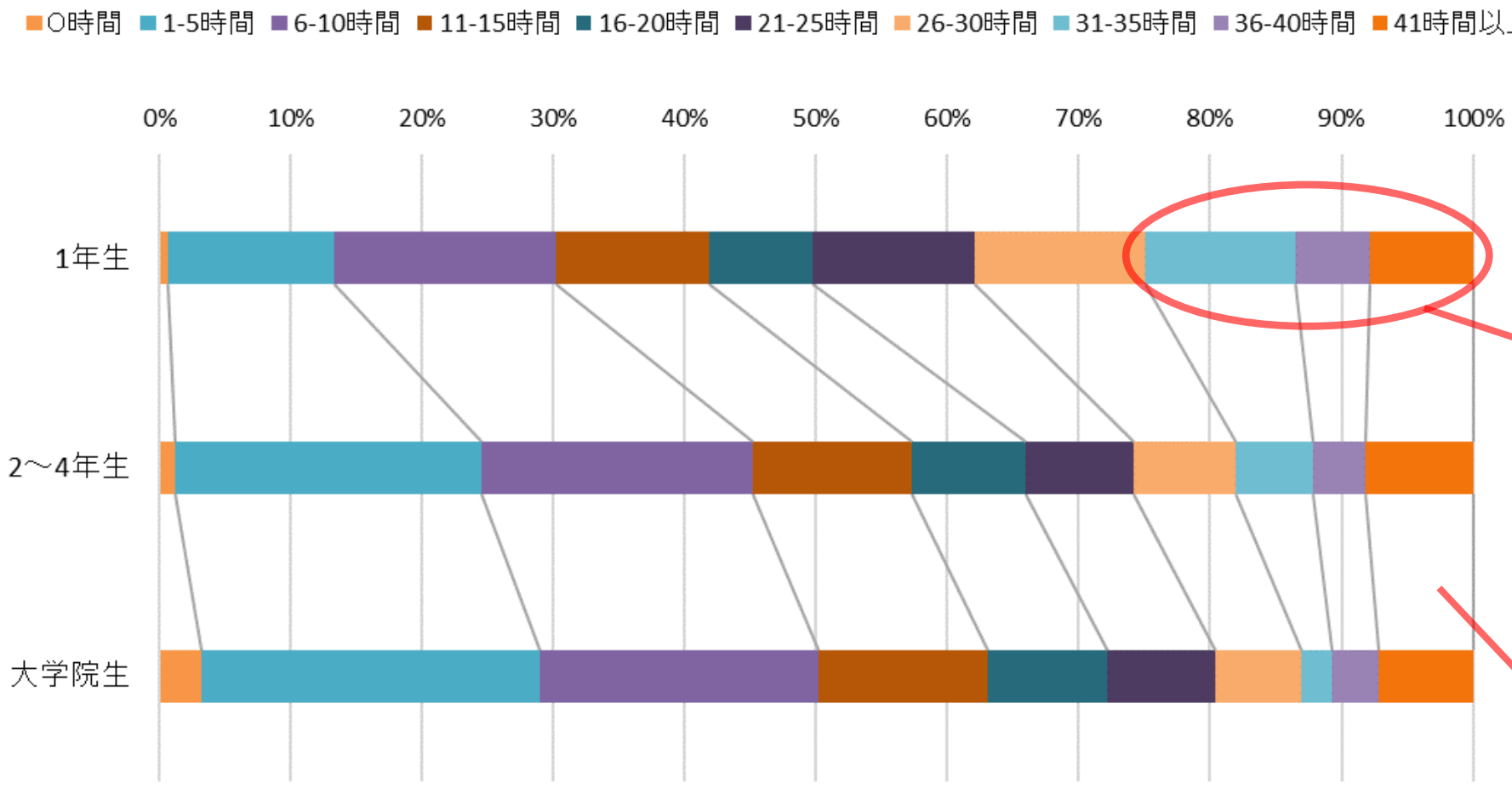
オンライン授業への取組状況

ほとんどの学生は遅刻・欠席せず，課題をこなしている

大学院生は意欲的に取り組む傾向が強い

学年が低いほど授業への理解度が低くなっている

一週間の授業に関連する学習時間(授業時間含む)

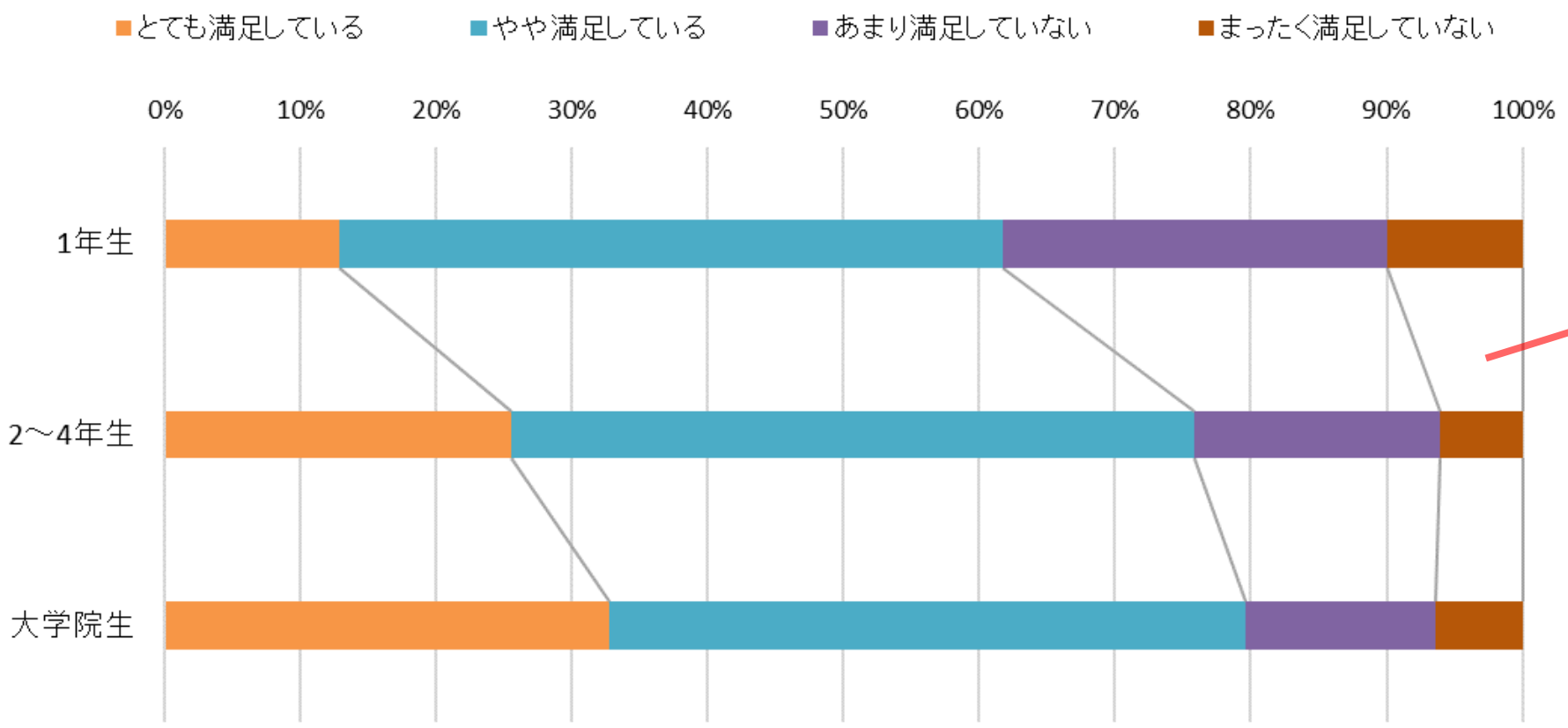


1年生は4人に一人が週に31時間以上学習

学年が低いほど学習時間は長い傾向。授業コマ数が影響か

一週間の授業に関連する学習時間（授業時間含む）

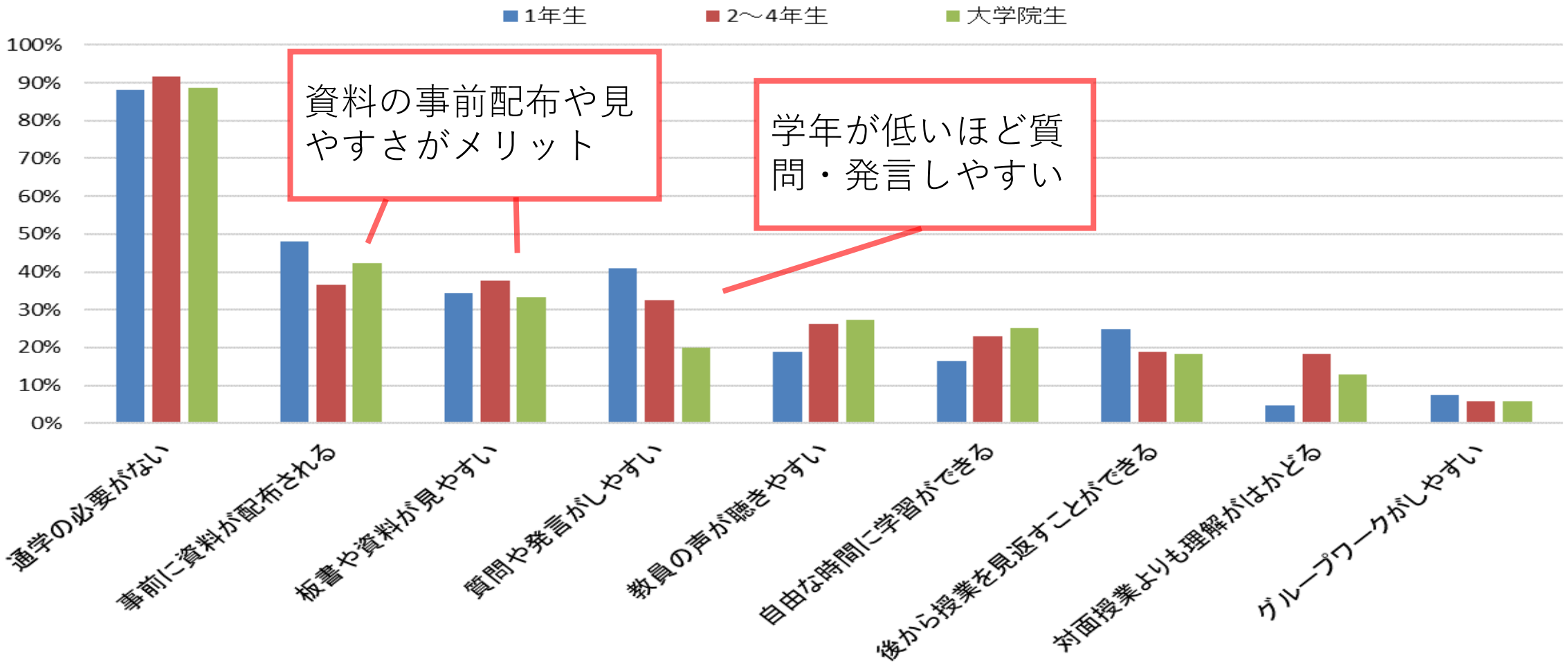
オンライン授業への満足度



オンライン授業への全体的満足度

全体では7割以上が満足しているが，学年が低いほど満足度は低くなっている

オンライン授業のメリット

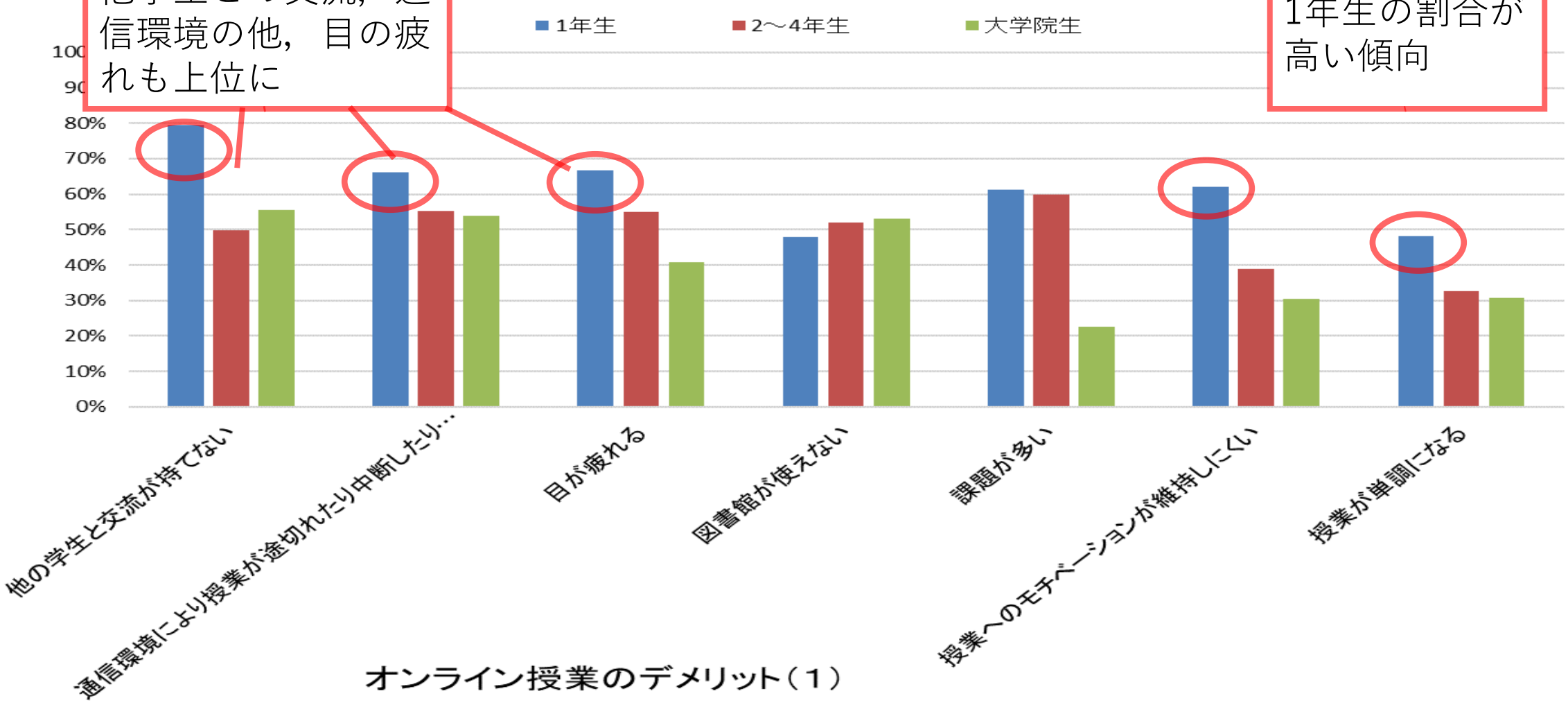


オンライン授業のメリット

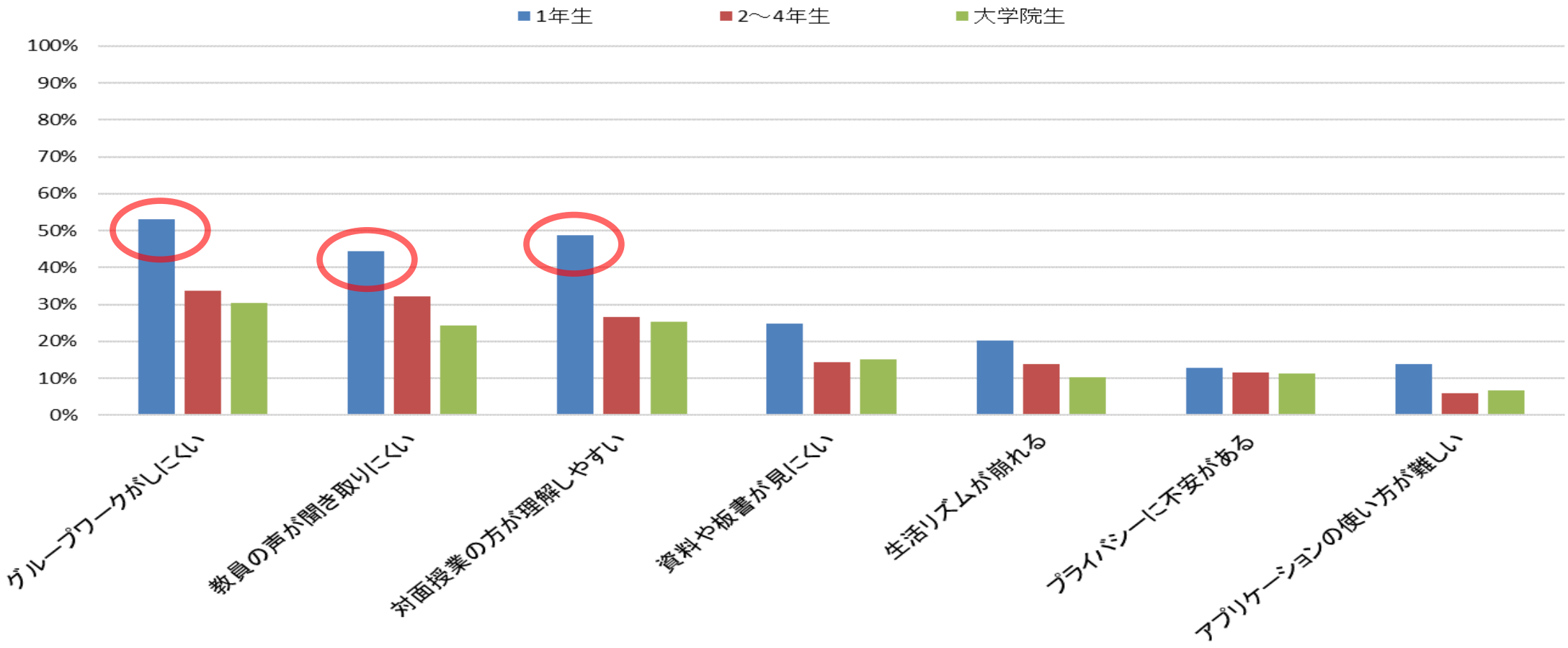
オンライン授業のデメリット①

他学生との交流，通信環境の他，目の疲れも上位に

1年生の割合が高い傾向



オンライン授業のデメリット②



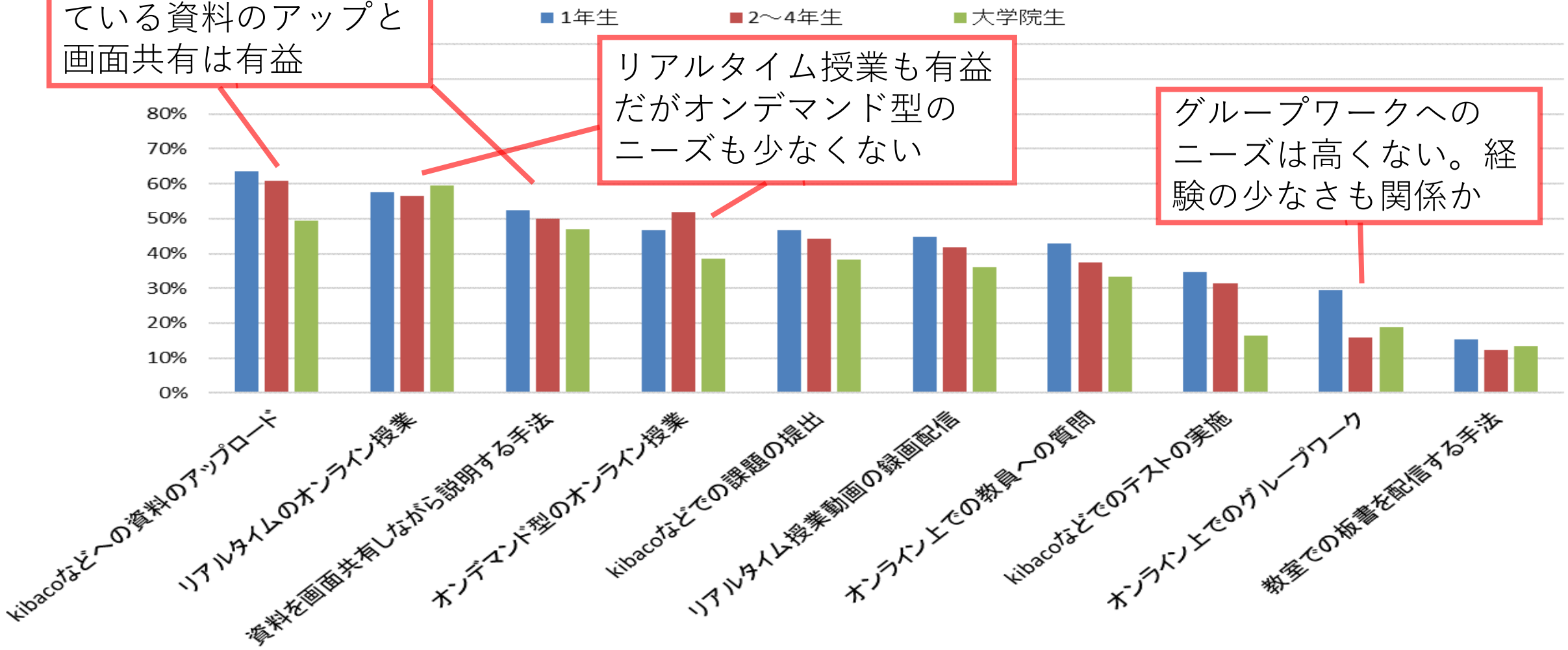
オンライン授業のデメリット（２）

どのような実施形態・手法が有益か

多くの授業で実施されている資料のアップと画面共有は有益

リアルタイム授業も有益だがオンデマンド型のニーズも少なくない

グループワークへのニーズは高くない。経験の少なさも関係か



オンライン授業において有益な実施形態・手法

オンライン授業への要望・意見(自由記述より)

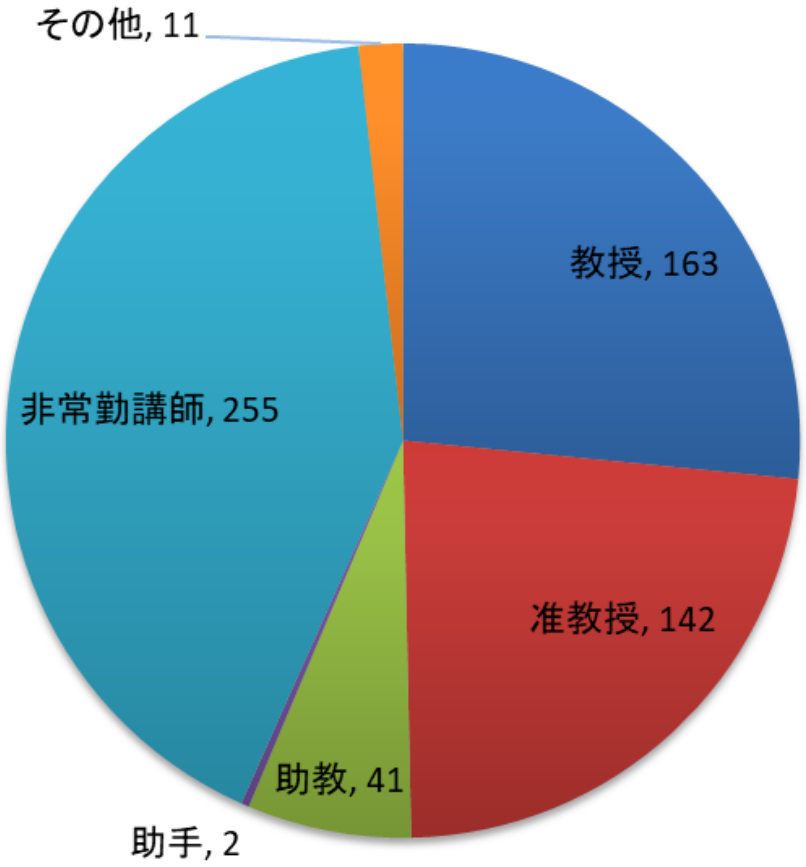
- オンライン授業のメリット
  - 教員が話す授業はオンラインで支障はなく，資料も見やすい
  - 通学時間が必要ない
  - コロナ感染のリスクが少ない
- kibacoの機能・動作への要望・意見
  - テスト・アンケートも課題一覧に載るようにしてほしい
  - kibacoの不具合，フリーズ等が生じる
- ネット環境の不安定さ
  - 音声が途切れる。録画配信してほしい
  - 再入室しようとしてもできず欠席となってしまった

オンライン授業への要望・意見(自由記述より)

- 課題の多さ
  - 課題が多く深く考えられず，妥協したものを提出することになる
  - 他の授業でも課題が出されていることを考慮してほしい
  - 課題が多く寝不足。アルバイトや専門科目の学習に避ける時間が減り厳しい
- 対面試験への不安
  - 感染が不安。クラスターが発生しないか不安
  - 試験の前後にオンライン授業があり，通学するため出席できない
- 演習・実習・グループワーク
  - 実習・実験などをオンラインでやるのは難しい
  - グループワークセッションは教員が全て見れるわけではないので効果的な議論になっていない場合も
  - どうしても一人づつの発言になるので人数の規模を調整してほしい

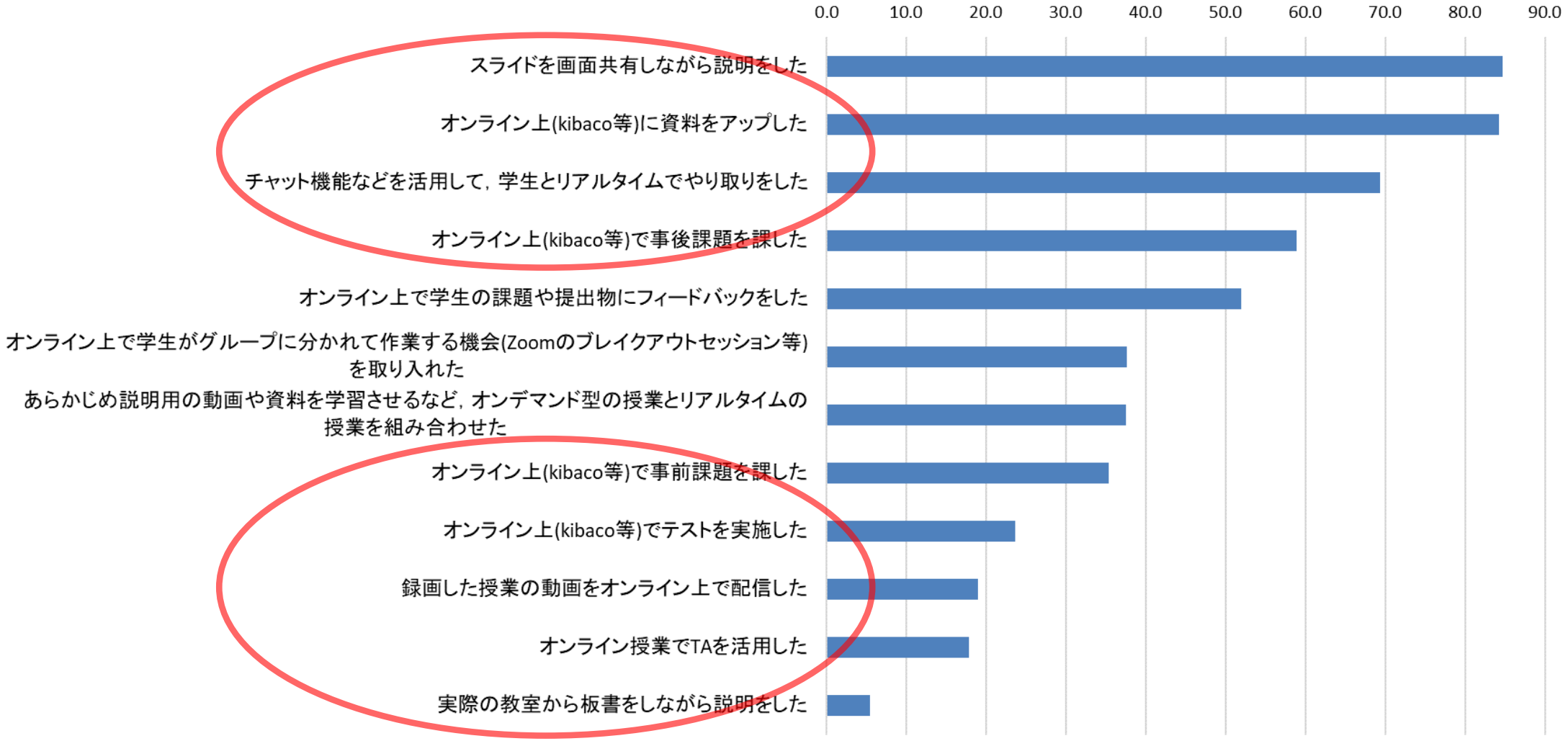
教員アンケートの結果

調査回答者



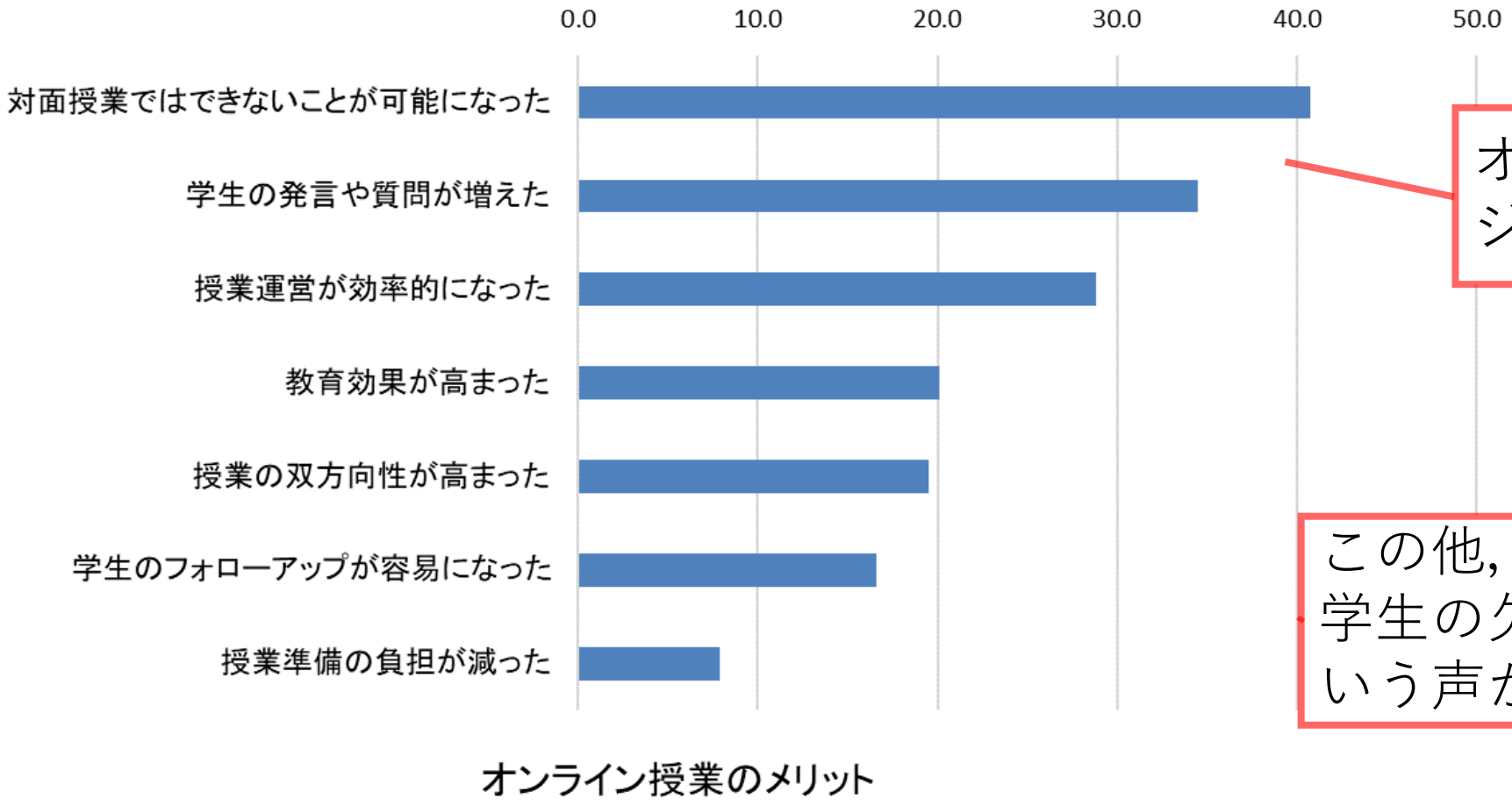
計621名が回答

オンライン授業の実施形態



オンライン授業の実施形態

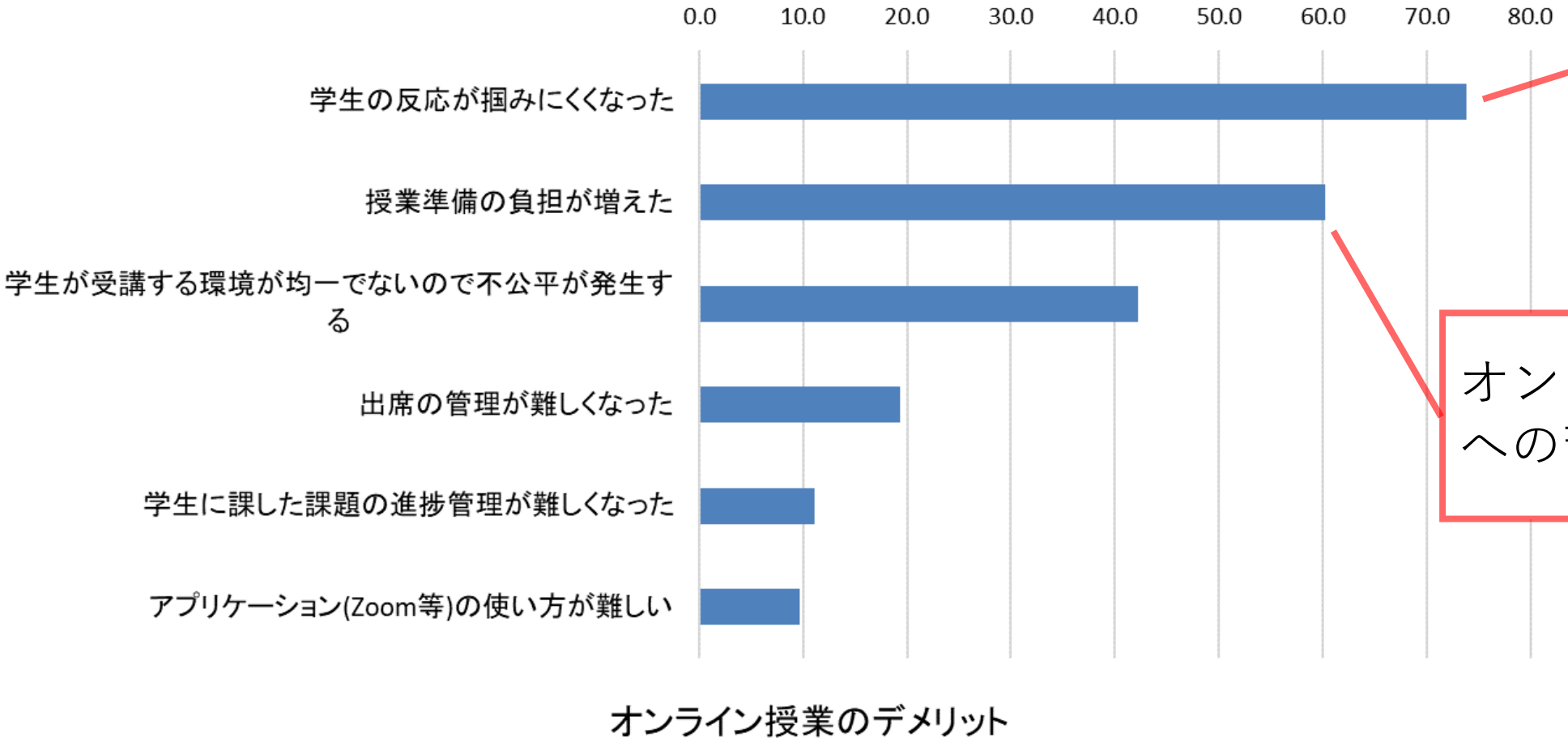
オンライン授業のメリット



オンラインのポジティブな側面

この他，自由記述では，学生の欠席が減ったという声が多数

オンライン授業のデメリット



自由記述でも，学生の反応が見えないことに関するコメントが多かった

オンライン授業化への苦労が反映

今後の教育の中でオンライン授業をどのように取り入れていけると思うか？(自由記述)

- オンライン授業の利点の活用
  - Kibaco等を活用し事前・事後学習を課すことで学生の学習を促せる
  - 動画配信は事前・事後学習に効果的
  - 学生が意見を言いやすい
  - 座学・大講義ではオンライン授業のメリットが大きい
  - 障害学生や体調不良の学生，社会人大学院生，留学生に有益
  - 複数キャンパスの学生が受講できる

今後の教育の中でオンライン授業をどのように取り入れていけると思うか？(自由記述)

- オンライン授業の欠点への留意
  - 学生・大学のネット環境を整える必要
  - 対面授業とオンライン授業の併用が物理的（施設設備的、時間的）に難しい
  - 直接のやりとりがない分，ケアやフォローが必要
  - 長時間の受講は身体面にネガティブな影響
  - 他の学生との交流の機会が減る
- やはり対面授業を希望
  - 演習・実習・実験・ゼミ・試験は対面にしてほしい
  - 対面授業が最も効果的

今後の教育の中でオンライン授業をどのように取り入れていけると思うか？(自由記述)

- オンライン授業導入時の工夫
  - 部局ごとにオンライン授業日・時限とオフライン授業日・時限について一定の指針を定めることが不可欠
  - 基礎的な講義科目はオンデマンドのコンテンツ配信とオンラインでのやり取りである程度カバーできる
  - 通常の講義はオンラインを中心にし、テスト期間を使って大学でのテストや実験・実習など対面授業を進めると良い
  - 教養や基盤科目など，複数の部局から受講生がある科目については，活用すべき
  - 台風などの自然災害，出張などの際のバックアップとして準備
  - 補足講義動画のYouTube配信・欠席等した学生へのフォロー

ご清聴ありがとうございました